

農業技術情報

令和4年7月20日
ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128
JA幕別町 0155- 54-4118
JAさつない 56-2131
JA帯広大正 64-4591
日甜幕別原料事務所 54-2756
幕別町農林課 54-6605

作物の生育・作業の遅速（幕別町7月15日）

（ ）内は平年値（※春まき小麦は暫定）

| 作物名 | 遅速日数 | 生育および作業状況 | 生育期節 |
|------------------|------|--|------------------------------------|
| 秋まき小麦 | 早3 | 稈長 84.1(79.6)cm 穂長 8.3(8.8)cm 穂数 661(681)本/m ² | 乳熟期 6/28 (6/30) 成熟期 7/19 (7/22) |
| 春まき小麦 (はるきらり) | 早3 | 稈長 92.3(83.3)cm 穂長 7.6(8.1)cm 穂数 714(736)本/m ² | 乳熟期 7/7(7/10) |
| 馬鈴しょ | 早1 | 茎長 67.7(69.6)cm 茎数 4.0(3.9)本 | 終花期 7/18(7/19) |
| 大豆 | 早1 | 茎長 51.5(41.5)cm 葉数 6.5(6.3)枚 | 開花始 7/17(7/18) 開花期 7/20(7/21) |
| 小豆 | 早2 | 茎長 12.2(12.4)cm 葉数 5.3(4.8)枚 | 開花始—(7/27) 開花期—(7/30) |
| 菜豆 (金時) | ±0 | 茎長 42.3(42.3)cm 葉数 4.0(4.0)枚 | 開花始 7/12(7/12) 開花期 7/15(7/15) |
| てん菜(移植) | 早2 | 草丈 64.6(58.6)cm 葉数 23.8(22.3)枚 根周 26.4(24.5)cm | |
| てん菜(直播) | 早3 | 草丈 56.9(45.9)cm 葉数 17.4(16.4)枚 根周 18.5(14.7)cm | |
| 牧草 | ±0 | 草丈 33.2(32.3)cm 1番収穫終 (7/11) | |
| 飼料用とうもろこし | 早1 | 草丈 158.8(146.5)cm 葉数 14.0(13.8)枚 | |
| ながいも | 早3 | 茎葉重 180.0(107.1)g いも長 24.3(22.9)cm いも重 46.4(24.4)g いも径 21.4(13.8)mm | |
| たまねぎ | 遅1 | 草丈 91.8(80.7)cm 葉数 8.3(9.0)枚 葉鞘径 23.6(21.7)mm 球径 3.74(3.75)cm | 球肥大始 7/13(7/12) 球肥大期 (7/16) |

畑作

<小麦>

1 収穫前の管理

(1) 赤かび病、赤さび病、黒変病の防除

最終防除にあたっては使用時期(収穫前日数)に注意してください。

表1 赤かび病、赤さび病、黒変病の防除薬剤

| 防除時期 | 薬剤名 | RAC コード | 使用濃度 (倍) | 使用時期 (収穫前) | 回数 (以内) |
|----------|----------|------------|-------------|---------------|------------|
| 臨機(登熟期間) | チルト乳剤 25 | 3 | 1,000~2,000 | 3日 | 3回 |

(2) 収穫作業に向けて

- ・コンバインによる収穫作業がスムーズに行えるよう、ほ場周辺の枝払いや草刈りを実施しましょう。
- ・ほ場内に雑草が繁茂している場合、倒伏の助長、他ほ場への種子の持ち込み等が懸念されるため、株ごと抜き取り、ほ場外へ持ち出しましょう。
- ・過去にソバを作付けたほ場や前作が春まき小麦の場合、収穫物にこれらの子実が異物として混入(コンタミ)する恐れがあるため、収穫前の抜き取りを徹底しましょう。
- ・倒伏した小麦は低アミロや細麦となりやすいため、品質向上のために収穫時に正常な麦と混ぜないように努めましょう。

<ばれいしょ>

病害虫が発生しやすい高温多湿環境にあるため、今後もほ場観察に基づき適正に防除を実施して下さい。

1 疫病の防除

高温多湿になると夏疫病の発生も懸念されます。また、塊茎の肥大が始まっていますので、今後は薬剤毎の登録有無も考慮し引き続きローテーション防除を行いましょう。

表2 疫病の防除薬剤例

| 薬剤名 | RAC コード | 使用濃度 (倍) | 使用 時期 (収穫前) | 使用 回数 (以内) | 効果 の 発現 | 対象病害(倍) | | |
|----------------|------------|-----------------|-------------------|------------------|---------------|---------|---------|---------------|
| | | | | | | 夏疫 病 | 菌核 病 | 塊茎 腐敗 |
| ホライズンDF | 27 11 | 1,000～ 2,500 | 14日 | 4回 | 予防 治療 | 1,500 | — | — |
| プロポーズ 顆粒水和剤 | 40 M5 | 750～ 1,000 | 7日 | 5回 | 予防 治療 | 1,000 | — | 750～ 1,000 |
| エキナイン 顆粒水和剤 | 27 40 | 2,000 | 7日 | 4回 | 予防 治療 | — | — | — |
| フロンサイド SC | 29 | 1,000～ 2,000 | 7日 | 4回 | 予防 | 2,000 | 1,000 | 1,000 |
| ランマン フロアブル | 21 | 1,000～ 2,000 | 7日 | 4回 | 予防 | — | — | 1,500 |
| レーバス フロアブル | 40 | 1,500 | 7日 | 2回 | 予防 治療 | — | — | 1,500 |

2 軟腐病の防除

高温多湿条件が続く軟腐病が発生しやすい環境にあるため注意しましょう。「6月17日付技術情報」および「令和4年度農作物病害虫防除基準」参照の上、初期防除を徹底しましょう。また、生育量に応じて水量を調節しましょう。

3 アブラムシ類・オオニジュウヤホシテントウの防除

発生ほ場がみられます。害虫の発生状況に応じて防除を実施して下さい。

* 薬剤の使用例は「6月17日付技術情報」を参照

<豆 類>

1 大豆のべと病防除

「トヨムスメ」、「音更大袖」、「黒大豆」以外はべと病抵抗性があるので防除は不要です。開花始に上位葉(上から見ることができる葉)を確認し、品種に合わせて適正に防除をしましょう。

べと病の要防除水準

開花始の上位葉の病斑面積率 2.5%以上 (病斑個数 30個/葉、葉全体に病斑がある)

防除時期の目安

開花2~3週間前に要防除水準に達した場合 ⇒ 要防除水準に達した時期とその2~3週間後の2回防除。

開花始に要防除水準に達した場合 ⇒ 開花期1回防除が必要(トヨムスメ・音更大袖)

開花始に要防除水準に達していない場合 ⇒ 開花期1回防除が必要(黒大豆)、防除不要(トヨムスメ・音更大袖)

表3 大豆べと病の防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期(収穫前) | 使用回数(以内) |
|------------|--------|---------|-----------|----------|
| プロポーズ顆粒水和剤 | 40、M5 | 1,000 | 21日 | 2回 |

2 大豆の菌核病防除

開花始後 10~15日目に第1回散布をし、2回目以降は発生状況に応じて10日毎に防除しましょう。

表4 大豆菌核病の防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期(収穫前) | 使用回数(以内) | 備考 |
|-----------|--------|-----------|-----------|----------|---------------------|
| トップジンM水和剤 | 1 | 700~1,000 | 14日 | 4回 | 紫斑病に1000倍で登録あり |
| プライア水和剤 | 10,1 | 1,000 | 14日 | 4回 | 紫斑病・灰色かび病・炭そ病にも登録あり |

3 小豆・菜豆の病害虫防除

(1)炭そ病の防除(小豆・菜豆)

7月からの多雨・多湿時に発病が多くなります。ほ場を良く観察し、発生初期から防除に努めましょう(表5)。 ※「雪手亡」「絹てぼう」は抵抗性があるため防除不要

(2)菌核病、灰色かび病の防除(小豆・菜豆)

開花後に曇雨天が続くと発病しやすくなります。ほ場の生育に合わせて、適期防除に努めてください。

◎ 小豆防除適期 1回目:開花始後7~10日目 2回目:1回目防除の10日後

◎ 菜豆防除適期 1回目:開花始後5~7日目 2回目:1回目防除の10日後

表5 小豆・菜豆 菌核病、灰色かび病を中心とした防除例

| 回数 | 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期(収穫前) | 使用回数(以内) | 炭そ病 |
|-----|----------------------|--------|---------|-----------|----------|-----|
| 1回目 | オルフィンフロアブル※1 | 7 | 2,000 | 7日 | 3回 | — |
| | または ブロードワン顆粒水和剤※2 | | 1,000 | 14日 | 4回 | ○ |
| 2回目 | ファンタジスタ顆粒水和剤 | 11 | 2,000 | 7日 | 3回 | ○ |

※1 「オルフィンフロアブル」は炭そ病に効果がないため、炭そ病発生ほ場では「ブロードワン」を使用するか、「トップジンM水和剤」との併用で対応する。

※2「ブロードワン顆粒水和剤」はチオファネートメチルを含むので、トップジンMとの総使用回数(4回)に注意。

(3)アブラムシ類・アズキノメイガ・ダニ防除(小豆)

マメアブラムシの発生が確認されています。発生状況に応じて防除してください。アズキノメイガは開花始の7～10日後に薬剤散布を行ってください。

表6 小豆のアブラムシ類・アズキノメイガ・ダニ防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期(収穫前) | 使用回数(以内) | アブラムシ類 | アズキノメイガ | ナミハダニ | カメムシ |
|-------------|--------|-------------|-----------|----------|--------|-------------|-------|------|
| モスピランSL液剤 | 4A | 2,000～4,000 | 14日 | 3回 | ○ | ○ 2,000倍 | | |
| ゲットアウトWDG | 3A | 3,000 | 7日 | 3回 | ○ | ○ | | |
| ペイオフME液剤 | 3A | 2,000 | 7日 | 3回 | ○ | ○ | | |
| スミチオン乳剤 | 1B | 1,000 | 21日 | 4回 | ○ | ○ | | ○ |
| フェニックス顆粒水和剤 | 28 | 4,000 | 7日 | 2回 | | ○ | | |
| カスケード乳剤 | 15 | 4,000 | 7日 | 2回 | | ○ | ○ | |
| トクチオン乳剤 | 1B | 1,000 | 30日 | 2回 | | ○ | ○ | |

※「アドマイヤー顆粒水和剤」は豆類(種実)での登録が削除となりましたのでご注意ください(大豆・菜豆含む)。

<てんさい>

褐斑病の初発およびヨトウガの食害が確認されています。ほ場を良く観察し病害虫の発生に応じた適期防除に努めてください。また根腐病も発生しやすい気象条件となっています。

1 褐斑病の防除

ほ場の発病状況を確認し発生初期には遅れずに防除しましょう。

また、DMI剤(RACコード:3)およびカスガマイシン剤(RACコード:24)は道内で広く耐性菌の発生が確認されています。可能な限り使用回数を低減してください。また、DMI剤はマンゼブ剤と同時に使用しましょう。

表7 褐斑病防除例

| 防除時期 | 農薬名 | RACコード | 薬剤特性 | 使用濃度(倍) | 使用時期(収穫前) | 回数(以内) |
|------|--------------------------------------|---------|------|---------|-----------|--------|
| 8月上旬 | ① どさんこスター水和剤 | 3 M3 | 予治 | 500 | 21日 | 4回 |
| | ② ビートスター水和剤 ③ ゲットクル水和剤 上記のいずれか | | | | | 2回 |

※マンゼブ(RACコード:M3)を含む剤の総使用回数は5回まで

2 ヨトウガの防除

RACコード別系統剤による輪番防除を実施し、連用とならないよう予防防除を実施しましょう。また8月中旬以降の発生状況により薬剤処理回数の削減を検討しましょう。

表8 害虫防除例

| 防除時期 | 対象害虫 | 農薬名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期(収穫前) | 回数(以内) |
|------|------|---------|--------|---------|-----------|--------|
| 8月上旬 | ヨトウガ | カスケード乳剤 | 15 | 4,000 | 7日 | 4回 |

※カスケード乳剤は、ハダニ・アシグロハモグリバエ・シロオビノメイガにも効果があります。

3 葉腐病(根腐病)の防除

葉腐病は高温多湿条件で多発します。発生が見られたら直ちに防除を行ってください。根腐病も同じ病原菌ですので、発生に注意しましょう。

表9 葉腐病の防除薬剤例

| 農 薬 名 | RACコード | 使用濃度 (倍) | 使用時期 (収穫前) | 使用回数 (以内) |
|---------------|--------|-------------|---------------|--------------|
| モンカットフロアブル 40 | 7 | 1,000 | 14日 | 4回 |
| リンバー顆粒水和剤 | 7 | 4,000 | 7日 | 3回 |

野 菜

○軟腐病の防除

軟腐病の発生が見られます。高温(25℃以上)多湿条件は軟腐病の発生を助長します。また、高温多湿下での銅剤による防除は薬害が心配されます。必要に応じて抗生物質系殺菌剤を使用するなどして防除を実施してください。

◎薬剤防除以外の細菌性病害対策

- ・茎葉を傷つける恐れがあるため、手取り除草を控える。
- ・軟弱徒長する恐れがあるため、肥大期以降の追肥は控える。(たまねぎ)

◎銅剤使用時の注意点

- ・薬害軽減のため、クレフノン 200 倍を加用し、葉面散布剤との混用避ける。
- ・高温多湿時の使用は避ける。
- ・薬剤投入フィルターを外し、水を入れてから徐々に薬剤を入れる。

○アザミウマ類の防除

小麦収穫に伴い近隣ほ場へのアザミウマ類の侵入が心配されます。たまねぎや葉菜類では小麦収穫前後に防除を実施してください。

<たまねぎ>

茎葉の生育が旺盛な時期です。生育に合わせて薬剤の散布水量を増やしましょう。

(1)ネギアザミウマの防除

表1 ネギアザミウマの防除例

| 使用時期 | 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 |
|------|-------------|--------|-------------|-------|------|
| 7月下旬 | リーフガード顆粒水和剤 | 14 | 1,500 | 収穫3日前 | 3回以内 |
| 8月上旬 | グレーシア乳剤 | 30 | 2,000~3,000 | 収穫7日前 | 2回以内 |

(2)病害の防除

表2 たまねぎ病害の防除例

| 使用時期 | 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 | 白斑葉枯病 | 軟腐病 | 灰色(貯蔵)腐敗病 |
|------------|------------|-----------|-------------|-------|------|-------|-----|---------------------|
| 7月下旬 | アフェットフロアブル | 7 | 2,000 | 収穫前日 | 4回以内 | ○ | | ○ |
| | バクテサイド水和剤 | 41/25, M1 | 500~1,000 | 収穫7日前 | 5回以内 | | ○ | |
| 8月上旬 | ベルコートフロアブル | M7 | 1,000 | 収穫前日 | 5回以内 | ○ | | ○ (2,000~3,000倍) |
| | コサイド3000 | M1 | 1,000~2,000 | — | — | | ○ | |
| 根切り直後 | ポリベリン水和剤 | M7,19 | 750~1,000 | 収穫3日前 | 5回以内 | ○ | | ○ |
| | Zポルドー | M1 | 500 | — | — | | ○ | |
| 根切り後7~10日後 | トップジンM水和剤 | 1 | 500~1,000 | 収穫前日 | 5回以内 | | | ○ |
| | Zポルドー | M1 | 500 | — | — | | ○ | |
| 収穫前日 | リベロ水和剤 | 3 | 2,000 | 収穫前日 | 3回以内 | ○ | | ○ |

<キャベツ・はくさい>

(1)コナガの防除

コナガ、モンシロチョウとも発生が多い状況にあります。継続して防除を行ってください。

※薬剤については、「令和4年度農作物病害虫防除基準または表3」を参照。

(2) キャベツのアザミウマ防除

ほ場を確認し、必要に応じてコナガとの同時防除を実施してください。

表3 キャベツのコナガ、アザミウマ類の同時防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 | アザミウマ類 | コナガ |
|------------------|--------|-------------|--------|------|--------|---------------------|
| エルサン乳剤 | 1B | 1,000 | 収穫14日前 | 2回以内 | ○ | ○ (1,000~1,500倍) |
| スピノエース 顆粒水和剤 | 5 | 5,000 | 収穫3日前 | 3回以内 | ○ | ○ (2,500~5,000倍) |
| ディアナ SC | 5 | 2,500~5,000 | 収穫前日 | 2回以内 | ○ | ○ |
| ファインセーブ フロアブル | 34 | 1,000~2,000 | 収穫3日前 | 2回以内 | ○ | ○ |
| グレーシア乳剤 | 30 | 2,000~3,000 | 収穫7日前 | 2回以内 | ○ | ○ |

(3) 軟腐病の防除

表4 キャベツ、はくさいの軟腐病防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 | キャベツ | はくさい |
|-------------|--------|-------------|--------|------|------------------|------|
| Zボルドー | M1 | 500 | — | — | ○ 結球期以降は使用しない | ○ |
| アグリマイシン 100 | 41,25 | 1,500~3,000 | 収穫14日前 | 3回以内 | | ○ |
| スターナ水和剤 | 31 | 1,000 | 収穫7日前 | 3回以内 | ○ | ○ |
| マテリーナ水和剤 | 31,25 | 1,000 | 収穫14日前 | 3回以内 | | ○ |
| バリダシン液剤 5 | U18 | 800 | 収穫7日前 | 5回以内 | ○ | |
| | | 500 | 収穫3日前 | 3回以内 | | ○ |
| カセット水和剤 | 31,24 | 1,000 | 収穫7日前 | 3回以内 | ○ | |
| | | | 収穫21日前 | 2回以内 | | ○ |

※オキソリニック酸(RACコード:31)の総使用回数は3回以内。ストレプトマイシン(RACコード:25)の総使用回数は3回以内。

(4) キャベツの株腐病防除

株腐病は、結球~収穫期の高温・多湿条件下で発生しやすくなります。結球初期から予防的に防除を行い、発病株は早期に抜き取りましょう。

表5 キャベツ株腐病の防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 | 注意事項 |
|--------------|--------|-----------|-------|------|-----------|
| リゾレックス水和剤 | 14 | 500~1,000 | 収穫7日前 | 3回以内 | — |
| アミスター20フロアブル | 11 | 2,000 | 収穫7日前 | 4回以内 | 黒斑病に登録あり。 |

(5) 菌核病の防除

気温20℃前後、多湿条件下で多発します。気象状況に応じて予防防除を行いましょう。

表6 キャベツ・はくさい菌核病の防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 | キャベツ | はくさい |
|------------------|--------|-------------|--------|------|------|------|
| アミスター20フロアブル | 11 | 2,000 | 収穫7日前 | 4回以内 | ○ | |
| ファンタジスタ 顆粒水和剤 | 11 | 2,000~3,000 | 収穫3日前 | 3回以内 | ○ | |
| | | 3,000 | | | | ○ |
| ロブラール水和剤 | 2 | 1,000 | 収穫7日前 | 4回以内 | ○ | |
| | | | 収穫14日前 | 3回以内 | | ○ |

<レタス>

(1) アザミウマ類の防除

表7 アザミウマ類の防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 |
|---------|--------|-------------|-------|------|
| ディアナ SC | 5 | 2,500~5,000 | 収穫前日 | 2回以内 |
| グレーシア乳剤 | 30 | 2,000~3,000 | 収穫3日前 | 2回以内 |

(2) 軟腐病の防除

表8 軟腐病の防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 |
|----------|--------|---------|-------|------|
| Zボルドー | M1 | 500 | — | — |
| カセット水和剤 | 31,24 | 1,000 | 収穫7日前 | 2回以内 |
| バリダシン液剤5 | U18 | 800 | 収穫前日 | 3回以内 |

<ごぼう>

(1) アブラムシの防除

アブラムシが寄生した葉はゆるやかに裏側に巻き生育が阻害されます。発生が確認された場合は防除を実施してください。

表9 アブラムシの防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 |
|----------|--------|-------------|-------|------|
| エルサン乳剤 | 1B | 1,000~2,000 | 収穫7日前 | 3回以内 |
| バイスロイド乳剤 | 3A | 2,000 | 収穫7日前 | 4回以内 |

(2) 黒条病の防除

黒条病は、低温多湿条件下で発生しやすくなります。収穫予定の1ヵ月前に発生すると、減収につながるため注意が必要です。ほ場が茎葉でふさがる前に、予防防除を行ってください。

表10 黒条病の防除例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 |
|----------|--------|---------|--------|------|
| フロンサイドSC | 29 | 1,000 | 収穫21日前 | 3回以内 |

<にんじん>

(1) 軟腐病の防除

表11 軟腐病の防除薬剤例

| 薬剤名 | RACコード | 使用濃度(倍) | 使用時期 | 使用回数 | 黒葉枯病 |
|-----------|--------|---------|------------|------|----------------|
| Zボルドー | M1 | 500 | — | — | ○ (500~800倍) |
| コサイド3000 | M1 | 2,000 | — | — | ○ (500~1,000倍) |
| カスミンボルドー | 24,M1 | 1,000 | 収穫 14日前 | 2回 | ○ |
| カッパーシン水和剤 | | | | | |
| スターナ水和剤 | 31 | 1,000 | 収穫7日前 | 3回 | |

<ながいも>

・分肥を行う場合は、7月下旬までに実施してください。また、過剰な分肥や多肥ほ場における分肥は、黄変期の遅れによる乾物率低下の原因になるため、適正範囲内で実施してください。

～農薬の安全使用と農作業事故防止～

- ★農薬散布において、「農薬の安全使用基準」を遵守し、散布の高さを低くし周辺作物への飛散防止に努めましょう。
- ★散布時は、必ず防除用マスクを身に付け、肌をしっかりと覆うようにしましょう。散布が終わったら肌の露出部を良く洗い、うがいをしましょう。
- ★作業機の連結時での「挟まれ」事故や「機械昇降時の落下」事故に、十分注意しましょう。
- ★水分と塩分をしっかりととり、熱中症に注意しましょう。